

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

もう 1 点、最近示されたので、ＪＡ米全てに、食味を基準にする区分集荷の方針が、今回、出されましたけれども、管内での現在の区分集荷の取り組み状況と、この対応はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○ 商工農林水産課長（斉藤 孝君）

ＪＡひすいでは、集荷時に食味分析を既に行って、区分集荷を行っているというふうにお聞きしておりますので、今後また、その情報収集をしてみたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

ＴＰＰ初め、非常に農業を取り巻く環境、変化が目まぐるしく、また厳しさを増しているように見受けられます。

そういうことで、農業支援センターのほうも、また大変でしょうけれども、今後、引き続き農業政策のほうをよろしくお願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○ 議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔 1 7 番 五十嵐健一郎君登壇〕

○ 1 7 番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、教育環境と福祉の充実について。

新潟県教育委員会は、7月の、糸魚川白嶺高校 1 学級減に続き、12月1日に発表した、2018年から27年度の県立高校の再編計画「将来構想（仮称）」の素案では、少子化に合わせて、全県で14校以上、減らす方針を示した。

1 学年 3 学級以下の学校で統廃合を検討するとして、22校が対象となり、上越エリアでは6校、しかも糸魚川市内では、糸魚川白嶺、さらに海洋高校が検討対象となりました。また、この説明会を13日、日曜日、14時から糸魚川市民会館で開くとともに、12月28日、月曜日までに意見を募集すると、矢継ぎ早に突然、唐突に発表され、糸魚川市民は、あまりピンときてない人が多く、糸魚川が、消滅することをしっかりと情報発信し、特色ある高校の魅力化を図る必要があることを、市民全体の皆さんに強く広く、わかってもらうよう努力いただくよう、以下項目により、具体的に

質問します。

(1) 「早寝早起きおいしい朝ごはんフォーラム」開催を通した10年間の課題分析及び今後の取り組むべき行動について。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果を受けての具体的な取り組みについて。

(3) 市民総ぐるみのひとみかがやく0歳から18歳までのひとづくり。

今年度までの点検・評価。

検証結果を踏まえた施策の改善・見直し。

(4) 中長期を見据えた「県立高校の将来構想（仮称）」の素案公表に対する糸魚川市の対応策及び魅力化について。

(5) 芸術文化、スポーツライフの支援について。

(6) 大学等連携集落活性化実践事業及び移住体験事業について。

(7) 認知症の理解と支える体制づくり及び糸魚川版CCRC構想の調査検討について。

(8) 「ささえあいプラン」における就労支援・雇用促進及び日常生活支援の充実について。

以上で、1回目とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目から5点目までの質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので
+
よろしく願いいたします。

6点目につきましては、今年度は早稲田大学、横浜国立大学に活用いただいております、今後、大学・対象集落とともに拡大してまいりたいと考えております。

移住体験事業につきましては、糸魚川暮らし体験とインターンシップ事業に取り組んでおり、今後、充実してまいりたいと考えております。

7点目につきましては、認知症サポーター養成講座を実施し、支援体制の強化を図るとともに、認知症カフェを通じて、認知症に対する正しい知識の普及啓発を行ってまいります。

また、CCRCにつきましては、総合戦略の中で調査を進めてまいります。

8点目につきましては、就労支援や雇用促進は、関係機関等との連携・協力により、障害のある方の自立や社会参加を支援しております。

日常生活支援は、相談員が個々の状況に応じた支援を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、この 10 年間で「早寝早起きおいしい朝ごはん」への意識が向上し、特に、9 歳までの生活リズムは改善傾向にありますが、10 歳以上は、メディアに取り囲まれた生活になりやすい家庭が多く、課題と捉えております。

今後は、保護者を含め、9 歳までに生活リズムの定着を重点的にを行い、土台をつくった上で、豊かな体験をしてこそ子供は育つという意識を、市民ぐるみでつくり上げる取り組みが必要だと考えております。

2 点目につきましては、授業改善と家庭学習の習慣化が、課題であると考えております。

このため、各校に対し、テスト結果を詳細に分析して、自校の正答率の低い問題への取り組み、また、文部科学省による、特に正答率の低い問題をピックアップした、授業アイデア例の活用を指導しております。

教育委員会では、各校の授業改善の取り組みを、今後、確認・検証してまいります。

また、家庭学習の習慣化は、発達段階に応じた、自発的に家庭での学習の取り組みが図られるよう、啓発を進めるとともに、学ぶ意味を自覚できるキャリア教育への取り組みを、一層進めてまいります。

3 点目につきましては、これまでの成果は 4 点あり、1 つ目は幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携が、着実に進んでいること。2 つ目は、「早寝早起きおいしい朝ごはん運動」が定着してきていること。3 つ目は、学校生活を楽しく送っている子供が多いこと。4 つ目は、地域の行事に参加する子供の割合が高いことであります。

問題は 3 点あり、1 つ目は、学力の向上。2 つ目は、社会性や道徳性の育成。3 つ目は、家庭・地域とのさらなる連携であります。

このことを踏まえ、家庭では生活リズムの定着、愛着形成の育成のための支援、自発的な学習の定着、また、学校・家庭・地域が連携して取り組みを進めていくことが重要であり、子ども一貫教育基本計画の見直しを進めております。

4 点目の、県立高校の将来構想につきましては、12 月 1 日に素案が公表されたところであり、今後、内容を検証してまいります。既に、市内の高校の魅力づくりに対する支援を行ってきており、今後も 3 校からの要望をお聞きする中で、市として可能な支援を行ってまいります。

5 点目につきましては、芸術文化では児童生徒図工美術作品展の開催や、市民会館鑑賞推進事業などを通して、また、スポーツでは各種スポーツ教室や大会の開催、ジュニア団体の育成等を通して、今後も支援してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17 番（五十嵐健一郎君）

順番、どこへ行くかわかりませんので、よろしくお願いします。

7 番目の、認知症の理解と支える体制づくりから行かせてもらいますが、これも、一般質問でいろいろ取り上げてもらってるんですが、なかなか理解できなくて悩んでおります。

それで認知症の、認知症と認知症状を有する障害高齢者の人数を教えてくださいたいのと、若年認

知症人数、糸魚川市内で、サポーターはどれだけ、今現在おるのか、キャラバン・メイトは何人おるのかということを教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

高齢者の中で、認知症、認知症の症状を有する人数でございますが、今、ここに手元でございますので、後ほど報告させていただきます。

認知症サポーター養成講座の受講者でございますが、今現在、2,911名でございます。また、キャラバン・メイトの累計人数でございますが、平成26年度末で112人となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

9月の一般質問でもありましたが、初期の集中支援チームを設置すると、それが、平成30年度に設置目標という。医師会との協議、この辺はどうなっておるのか、教えていただきたいと思います。

医者と保健師、社会福祉士と専門職チームでやると言っておるんですが、これを早めていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

認知症初期集中支援チームでございますが、計画の中では、平成30年度に実施という運びになっております。

今現在、認知症のサポーター医につきましては、1名の先生しかございません。

それと、専門職であります保健師、また社会福祉士につきましても、なかなか人材を育成する、今、その段階でございます。

また、認知症の正しい理解というところで、地域包括支援センターが中心になりまして、いろんな講座を開いておりますし、認知症カフェの中でも、相談をいただいているところでございます。今後は、認知症の正しい理解というところで取り組みを始めているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

平成30年度には取り組むということなのですが、今、介護・介助が必要になった主な原因が、認知症がトップで、トップは高齢による衰弱ですが、認知症が29%に達しておる。脳卒中が18.4%で認知症のほうが原因が高い。平成20年度で2,000人ぐらいが、認知症・認知症状で、2,000人ぐらいが市内におると思うんです。若年の認知症もかなりおると思う、後で数字いただけると思うんですが、これは、早くやってもらわないとやっぱり、今、徘徊やいろいろな形で面倒見切れない人がいっぱいおると思うんで。

愛知県の高浜市、これがやっぱり平成26年度から、国立の長寿医療研究センターと共同事業で行われている認知症予防検診、本当の健康保険の検診とともにやってるんですね。こういうのを含めて、認知症予防検診を集团的に実施、これもやっぱり必要になってくると思うんで、その辺は早目に取り組んでいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

議員のご指摘のとおり、認知症につきましては、早期発見が一番重要だというふうに思っております。

しかしながら現在、いろいろな講座を開かせていただきましても、なかなか集まらないというような現状でございます。また、認知症ではないかというような場合においても、家族の方が認知症ではないという、理解不足というのも多々ある状況でございます。

先ほども申し上げましたとおり、認知症に関する、正しい知識を普及啓発するというのが、第一であろうというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

佐渡で、認知症モデルで発信して、泉田知事もやってるタウンミーティングの中で、やっておるんですが、これ本当に全身運動・音楽・リズムで認知症予防に「エクサドン」といって、太鼓もりをしながら、そういう運動も含めてやっておるんです。

こういうのも含めて、やっぱりやる必要があると思うんですが、この辺もやっぱり、健康いといがわ21も含めて、そういう形でやる必要があると思うんですが、予防のほうですね、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

私も各地区で、地区運動教室等をやっておりますが、その中での運動の一部のメニューといたしまして、そういった認知症予防、また認知症、そういったものの、運動しながら頭の中で計算をすとか、そういったメニューを取り入れながら、行わせていただいております。

現実的に、そういった部分で行っておりますのが、先ほど地区運動教室の中でも、そういった軽度の認知症の疑いがあるというようなテストも若干あるんですけども、そういった部分もテストを取り入れながら、約2割から3割程度、そういった疑いの方がいらっしゃるという部分もございまして、今のような取り組みをさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

すみません、先ほど認知症の人数を問われておりましたけれども、認知症の数字につきましては、ことしの4月1日現在、2,207人となっております。そのうち、64歳以下の若年の方は、30人でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

4月1日で人数が2,207人、平成20年度2,000人程度であったんで、ふえてます。若年認知症も、64歳以下で30人ということで、糸魚川市内、まだ多いかもわかりませんが、隠れ認知症もあると思うんで、その辺も含めれば、全国で認知症が465万人、予備軍が400万人になっていっておるんですよね。やっぱり先進地も含めてやっていただきたい。

それで、今、専門家、専門医が要らないそうなんです。タッチパネル式認知症治療評価法といって、タッチパネルですぐわかるそうです。今、山本課長言われたとおり、検診のときにそれを利用してやって、判定してもらえる評価法がかなり先進地でやられておるそうなんです。ぜひ、それで高い検出率があるそうなんです。専門家は、後でそれを見て判定してもらえばいいんです。それでわかるそうなんです。タッチパネル式、スクリーニングテスト。

これは絶対、ぜひ、糸魚川市でも取り入れていただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

タッチパネルにつきましては、認知症カフェを開設する段階で、道具として買わせていただいております。いろいろな介護予防の事業の中で、その調査を希望される方には、やらせていただいて

るところでございます。また、認知症の検査をどうぞというお話の中ではなかなか、私はそんなふうな検査をして、結果が悪かったら困るわというようなお話もあります。

そんな中で、認知症につきましては、認知症だという判断をする前に、何となく変だなといったときに、周りの方がいろんな見守りをする中で、地域の中で生活できる方もたくさんいらっしゃいます。認知症と断定する前のいろんな支援を、行政のほうで進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、やっぱり認知症も予防だと思うんですが、運動も含めてすばらしいことをやっておる高浜市では、リスク検診とか、歩く速さのリズムとか、一番早く見つけるのが必要なんで予防活動、歩く活動量、活動をはかる歩数、そういうのも含めてやっていただいております。歩くコース、市内でいっぱいありますが、どんどんコースをつくっていただきたいと、こう思っております。

それで、認知症予防専門士制度とあるんですが、糸魚川市では誰か取ってるのか、医師のみなんでしょうか。認知症予防専門士制度というのがあるそうなんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

専門医につきましては、糸魚川市で1名、サポート医につきましては、今現在1名のお医者さんでございます。

専門士ということにつきましては、初めてお聞きいたしましたので、調べさせていただきます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、そういう専門士も含めて何人か、専門士の研修とか制度に基づいて、やっていただきたいのと、今、いろいろ高校生サポーターだとか、いろいろな形でリアルタスク能力、そういうのも含めて、料理とかステップ、踊りみたいなのも含めて、そういう運動教室も行ってますので、ぜひ、取り入れてやっていただきたいと思っております。

次に入らせていただきますが、CCRC構想、これも先ほど総合戦略でやっていただけると、調査・研究、何もやってないんですか。大分、先進地は進んでおりますが、糸魚川では取り組みをやるのか言っておって、検討だけで進んでないんですか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

ＣＣＲＣにつきましては、やはり受け入れるための地域コミュニティーなどの、元気なうちは継続的なケアが必要になります。これは、受け入れる側もそうですし、入ってくる方もやはり、それなりに地域貢献等をしていただくという形になります。

今度は、それから年をとられて、医療なり介護が必要になった場合も、これも継続的なケアが必要になってくるということから、先進地、今は南魚沼で２００組４００人を目標に、受け入れるということでやっておりますが、その辺の状況も見つ中で、やはりこれについても検討していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

９月のときに、私も一般質問させていただいたときに、藤田企画財政課長は糸魚川市版ＣＣＲＣ構想の調査検討を、「制度が固まってから取り組むのでは、やはり遅い部分もあるので、首都圏の都市との交流も含めて、早い段階から調査研究のほうには取り組む」と言っておるんですが、なかなか進まないんですが、本当に先進地では、先ほどおっしゃられました南魚沼、長崎県、茨城県笠間市、山梨県都留市、これ見てみるとやっぱり進んでますよね。その辺も含めて、お試し移住、体験教室、その辺も含めて早くやることはできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

ＣＣＲＣというような大規模なものじゃなくても、やはり短期移住型の体験事業だとかそういうものについては、やはり来年度、今年度もそうですけども行っておりますし、その辺で来ていただいて、糸魚川を見ていただいて地域と交流していただいて、自分がそこに入っていけるかどうかというようなところも見きわめつ中で、やはり移住なりしていただくというのが、基本かなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

地方総合戦略の中で、全国で今、採用されたのは幾つぐらいですかね。３０近い、先ほど先行型も含めて、総合戦略で３月までにどう取り組むかと、全国でもはや３０カ所ぐらいやっておりますよ。糸魚川市も挙げておるけど、採用されませんでしたけど、ぜひ、その辺も含めていつやるか、予算化も含めて、まだ予算中なんだろうけど、それやっぱり図る必要があると思うんですわ。このＣＣＲＣ構想の、推進協議会みたいなものの設置を考えてないんですか。まず、そこから始めないと。それはチーム糸魚川でやるべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

総合戦略の推進について、庁内と庁外ということで考えております。

庁内については、庁内の推進委員会を中心として、進めたいと思ってますけれども、庁外の部分については、当然、庁内の推進組織との連携、そういったものも必要となりますし、庁外の組織としては、チーム系魚川を中心とした、新たな検証も兼ねた組織をつくりたいと思ってます。ただ、組織ありきではなくて、やはり総合戦略をつくる際にも、いろんな団体の方と意見交換しております。そういう中では、やはり市の考え方、それから市民の皆さんや団体の皆さん、それぞれの考え方を確認する中で、よりよい方向に推進していくことが必要と思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

南魚沼もそうですが、山梨県都留市もＣＣＲＣ推進班、４つのプロジェクト、移住環境整備プロジェクト、大学連携プロジェクト、地域連携生涯学習プロジェクト、お試し移住もありますし、４つ目が健康長寿支援プロジェクト。やっぱり、それはチーム系魚川でＣＣＲＣ１つですが、何か固まって、ただ団体で話し合ってるんでなく、どのポイントでやっていくかというのは、総合戦略で３つぐらい挙げて、何かやるということになれば、何のプロジェクトをやるか、私は挙げてやるべきだと思ってます。このＣＣＲＣも系魚川版が、ぜひ必要だと思うんですが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

総合戦略の人口ビジョンの中でも、お示しいたしておりますけれども、系魚川市の人口構成の中では、少子化・高齢化が非常に進んでいるわけでございます。重点的には、若者の移住・定住、これを中心に進めていきたいというのが、総合戦略の１つの柱でございます。

そういう中において、ＣＣＲＣの構想についても、議員おっしゃられるように、他市の事例もございます。当市でもできるのではないかとこの部分もでございます。

そういう部分については、調査・検討をしていきたいということで、現時点では、調査を進めているというのは現状でございまして、もう少し調査を進める中で、今後の対応を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

東京都杉並区と南伊豆町、これも連携して「アクティブシニアお試し移住プロジェクト」と、そういうのをやってるんですね。住所地特例もやって、そういうのも含めれば、やっぱり雇用を生み出すためにも、若者が定住・移住もしていただくためにも、やっぱり、もう少しとか言ってる場合でない、スピード感を持ってやっていただきたいと思うのですが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

移住・定住の中で、今、取り組んでおるわけでありまして。また今、議員ご指摘のように、やはり全国からというようなことではなくて、やっぱり相手が見えるところがやはり一番、私はベストだろうなと思っておるわけでありまして、その辺を今、進めさせていただいておるわけでありまして、まだ具体的にお示しする段階ではなくて、そういった、どこと連携をとっていけばいいのか、首都圏の中に声をかければいいのかというようなところであるわけでありまして、実際、アクションしておるわけでありまして。

そういう中で、総合戦略の中で位置づけをしていきたいということでありまして、そんなに時間は置かないで、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

時間を置かないでやっていただけるということでありまして、1億総活躍緊急対策でも、介護サービス利用50万人分、特養などをふやすということも、国の方針、出ております。

それと、きのうNHKであったんですが、無認可介護施設、これも糸魚川にはないと思うんですが、そういうのも含めて安い賃金で、ケアハウスじゃないですけど、いろいろな形で老人ホームみたいに高くない、そういうのも含めて、今、サ高住でないですけど、サービス付き高齢者住宅もありますんで、いろいろな形で早い段階で、私たちにお示しをいただきたいと思っておりますし、お願いしたいと思います。

次に移らせていただきます。

教育関係で11月28日、陰山先生の講演をいただいて、すばらしいなと。これを、糸魚川市に取り込んでいただければ、すごいいいなと思ったんですが、その辺、教育委員会も市長もお聞きになって、いかがだったでしょうか。感想と、今後の取り組みを、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

ご質問にお答えいたします。

私も、教育フォーラムに参加させていただき、陰山先生のお話を、興味深く聞かせていただきました。

陰山先生の取り組み、百ます計算、そして「早寝早起き朝ごはん」の取り組みについては、以前より承知していたわけですが、「早寝早起き朝ごはん運動」につきましては当市でも、ずっと取り組んでおり、成果は上がっているというふうに思っています。

百ます計算につきましても、取り組んでいる学級は多くありますが、陰山先生の実際のすばらしいところは、それを継続しているところだというふうに考えています。百ます計算に限らず、毎日、確実に何かを、学力向上のためにこつこつと積み重ねてやっていくということ、そしてその成長を、子供たちが実感できるという取り組みが、一番効果的だなというふうに思っております。

あのフォーラムに参加していた教職員も多くおりますので、そういった小さなことの積み重ね、努力の積み重ねについても、また、校長会を通して、指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、これをやっていただければ、学力も向上するんじゃないかなと思うんですが、今回の学力テストで下降きみと。

やっぱり継続だと思うんですね。先ほど課題にもありましたように、早寝早起きの状況分析を中学生ぐらいまで、睡眠時間、睡眠が一番必要だと。テレビとかパソコン、スマホも含めて1時間程度にすると。それと、読書は知能を高めるんで、読書の習慣化もありましたし、正しい生活習慣の環境。それと、やっぱり脳を早く動かす練習。頭を動かす、高齢者も含めてですが、子供から高齢者まで一緒なんですけど、寝るシャワー、寝るって言ってましたね。あまり怒らんで、怒るんでなく叱るぐらいで、寝るシャワー、ざーっといっぱい寝ていただきたい。

それと、保坂議員もありました、「ビリギャル」。全然、勉強しておらんかったんですけど、高校生で小学生レベルだったのが、慶応大学に受かったということも、話でありました。

ぜひ、繰り返しの学習が有効性と、言葉の力を伸ばす、これはやっぱり必要だと思うんで、漢字も必要だと思うんですが、その辺はいかがですか、市長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も、講演を聞かせていただきまして、非常にシンプルであるわけではありますが、しかし、陰山先生の話の聞いてると、非常に前向きに取り組んでいけそうかなというような気持ちになってくる、これが大事だなと思っております。

そのようなことで、あそこにお聞きになった方々だけではもったいないなと、もっともっと大勢の人に聞かせてあげたいなという形の中で、糸魚川市として、陰山先生ともっともっと、おいでい

ただ機会をつくって、家庭の皆様方や、また保護者の皆様方、そして学校の先生、市民の皆さん、いろんな場をつくって、全体で取り組む方向に行かないと、一部の人のみでやってしまうと、ただ単に、それは陰山先生の考え方というだけでこうなっていくので、やはりご本人からお聞きするのが一番いいのかなと思っておるわけでありまして、そういったこと等、早急に取り組める方法はないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、年に何回か呼ばれて、定着させていただきたいと思います。やっぱり、素晴らしい先生は、素晴らしいだけのものを持っていますね。

それでもう1つ、6月も一般質問させてもらったんですが、福井県の学力・体力トップクラスの秘密ということで、課長もあの本を持っておるということで、日本一の学力・体力に結びつけるには、福井県、秋田県を見習って、糸魚川市も日本一を目指してやっていただきたいと思います。この本も読んで、どうやれば糸魚川市がよくなるか、どうお考えだったでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

私も、これ読ませていただきました。そして7月の末に、市長と一緒に福井の県教育委員会に視察にも行かせていただきました。

その際、福井県の県の教育委員会の方からお話を聞きまして、一番感じたことは、これにもありましたんですが、当たり前のことを徹底してやるということです。県の教育委員会の方がおっしゃってたのは、宿題は出したからには必ず生徒にやらせる、やらせたからには確実に点検をします。こういったことの積み重ねが、学力向上につながっているんだというお話でした。

糸魚川市の実態を見ますと、中学生では家庭学習の時間が少ない、また、予習・復習というのが、全国よりも少ないということが挙げられます。こういった、当たり前のことを徹底してやるということについて、非常に学びました。

市内の学校でも、そういったことをしっかりやって、成果を上げている学校もございますので、その点について、また、他校とも情報交換をして、広げていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

市長も見ていただけたということ、私は見てないんですが、本だけなんで偉そうなことは言えませんが、やっぱり素晴らしいことは取り入れるべきだと思います。

この本の中に、中学校の具体例があるんですが、本当に毎日、宿題を出す。宿題、毎日1時間が

+

ら1時間半。朝の提出物の中に、自主学習ノート、生活ノート、テキスト学習、テスト計画表と4つを、みんな毎日出すんですね、中学生。

やっぱり、これも必要だと思いますよ。毎日毎日、学習、難しいがばっかりやるんじゃない、解けるがでもやるんですよ、やらせるんです。それも必要だと思います。

その中で、福井は鍛える教育文化。褒めるばかりじゃない、優しいばかりじゃない。丁寧な教育で、鍛える教育。どこか海じゃないですけど、遠泳、これも五、六年生も含めて、毎年やらせるんです。その準備に、もう1年生から泳いでる。そういうのも必要だし、山、登山。それと、しゃべって掃除するんじゃなく、無言の清掃、これ毎日。モップとか、こんなんやっておるわけじゃないんですよ。雑巾で、本当に丁寧に、掃除日本一。それもやって、あと、体力で握力が弱いんで、グーパー体操、これも高齢者もいいと思うんで、グーパー体操、毎日。夏休みの補習、これも必要だと思うんですが、この辺を含めて、放課後の補習も含めて、休みも含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

中学生の夏休み中の補習につきましては、各校、工夫をしてやっております。今年度は、教育委員会のほうで補助をしまして、教員のOBの方に何人か入っていただき、そのお手伝いをいただいているところです。小学校でも、各学級担任が工夫をしながら、補習をしたりということは行っていると思います。

鍛えるということにつきましても、福井の教育について、非常に学ぶところが多いというふうに考えています。子供たち、伸びしろがたくさんありますので、鍛えるということが、大変、子供たちを伸ばす意味でも大きなことだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、厳しさの中で優しさ、それも含めて人間性ですよ。生きる力、やっぱりこれが結びついていけば、当たり前前（あたり）のことが当たり前（あたり）にやれると思うんで、ぜひ、その辺も含めてやっていただきたい。

それで、学校が持つケアリング機能と、やっぱり高齢者も含めて、ケアも必要なんですね、子供も。必要だと思うんで、ぜひ、日本一を目指して、この一貫教育、いいものにしていただきたいと、こう思っています。

次、先ほど言いました統廃合の関係で、本当に1学級減、糸魚川白嶺ですね、1学級減るのは平成28年と公表されてるんですが、もう決まったんでしょうか。いつ、それが連絡来てされたのか、その辺、経過も含めてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

白嶺高校が、平成28年度の募集要項の中で、3学級120人の定員でというのが、10月26日の新潟県教育委員会で、正式決定されたということは、承知しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

決定で、今回12月1日に、平成31年度から34年ぐらいまでに、棚に乗かった、白嶺と海洋。

先ほど、海洋はかなりすばらしい特色・魅力もあるということで、私は大丈夫だと思うんですが、やっぱり糸魚川白嶺、これはやっぱり厳しいと思うんですが、その辺で対応策を含めて、県に対していかがなものなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

県の将来構想の中では、特段、学校名を示して、この学校が検討対象ですよということが示されているわけではございませんが、新聞の中では、あえて今回、県内6つのエリアの中の、5番目が上越市、妙高市、糸魚川市のこのエリアですが、この中で、その3学級以下の検討の対象となる学校は、ここここですよという5校を、あえて学校名を表の中に記載されておりますが、その中に白嶺高校と海洋高校が、名前を連ねておるということでございます。

したがって、ここがすぐに、何年度に統合計画だということではございませんが、やはり特色のある地域密着型の、地域との連携により、特色のある学校づくりをしていけば、例外となることもあるんだというのが、将来構想の中でも述べられておりますので、その点については、この白嶺高校、それから海洋高校について、さらに県外からも生徒を呼べる魅力のある学科づくり・学校づくりというものを、学校と話し合いをしながら進めていく必要があると、そういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

そこで、説明会が13日、日曜日、14時から市民会館、これの周知ですよ。きょう配られた庁内報では、13日の日程には何にも書いてないんですよ。

市長を初め、教育委員会、市の職員はどう考えておるんですか。これに、行くか行かないか。やっぱり、満員御礼ぐらいにして、やっぱり示してもらわないとだめだと思うんですが、その辺の対応はどこになるか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今回、この情報が入りましてすぐに、県のほうに、この説明会の広報を、どの範囲でやっておられるのかということをお聞きしましたところ、県のホームページと、それから一部、地方紙の新聞報道によってのみ、公開するということでしたので、私どもは、これでは市民のほうに、正確に広く情報が伝わらないだろうということで、市の広報でも、ぜひともお知らせをさせてもらいたいということをお知らせをした上で、市のホームページに、この会場と時間について、お知らせをする対応をとらせていただきました。

ただ、広報についてはもう時間がなく、次の広報紙、これに間に合う広報紙の原稿締め切りが終わっておりまして、間に合いませんでした。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

市民対応で、広報無線もありますし、各小中学校並びに幼稚園・保育園も含めて、そういう保護者対応・地域対応、回覧板はいいけど、すぐ通り過ぎますんで、ぜひ、その辺のそういう保護者の対象ちゃん必要だと思うんですが、その辺考えてないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

学校の保護者へは学校を通じて、周知のものについては、手配をさせていただく予定にしております。それから、広報無線とケーブルテレビについては、今、少し総務課のほうと、協議しておるところですので、市の広報無線の内容にふさわしいかどうかの判断をいただいた上で、対応は可能だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、広報無線並びにCATVも含めて、やっていただきたいと思うんですが、その辺、やっぱり重大ですよ。糸魚川白嶺と海洋が、その検討対象に載ってるというのがあるんで、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

糸魚川に住む子供たちにとって、海洋それから白嶺という学校のことに關しては、非常に重要な問題であると思います。ここには、糸魚川高校も含まれてくるというふうに考えておりますので、3つの高校にとって重要であると。そのために、そこを狙う子供たちがいるわけですから、その子供たちに対する、今後の動きはどうなるのかということは、保護者に知っておいていただく必要があるだろうと。そういうことで、県教委からの文書を配布していただいているわけですし、できるだけ多くの人たちに、この会が開かれるということを、できるだけ早い時期に知らせなければいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、お願いしたいと思いますし、1学級減のときに、署名活動もしていただいた方々、熱心な方々もいらっしゃいますし、いろいろな方にやっていただきたい。

それと、最初に1回目の質問にやらせてもらった、28日月曜日までに、要望とか意見をまとめて、28日までなんですよね、提出締め切り。これはやっぱり、説明会を13日にやって、28日までに提出してくれと。

私は、やっぱり市としての考え方・要望も含めて、提案・意見もしていただきたいのですが、28日までに。議会の総務文教常任委員会もありますし、その辺も含めて出していただきたいと思うんですが、市としての考え方、教育委員会も含めてそういう意見等まとめて、教育委員会もありますし、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今のお話は、県として、この素案に対する県民の意見を広く、パブリックコメントという形で募集をしているという内容でございますので、これに対して、市が公式に考え方を述べるかどうかというのは、また別の次元のお話だと思いますので、市としての見解、あるいは市の教育委員会としての意見・要望は、直接、県教委へ行って、お会いしてお伝えするという方法がありますので、ぜひとも市民の皆さんから、このパブリックコメントに対する意見・提言というものを、応募していただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

その考え方はいいと思うんですが、ぜひ、直接、これに対しての、先ほど竹之内次長が言われたように、直接、県に行って折衝していただきたいと思うんです。それはいつなんですか。早くお願いしたいと思うんですが、日程、決まってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今のところ、県の説明会の内容を詳細に聞いた上でないと、各学校のPTA、あるいは後援会の皆さんも、どういった要望をしたい、すればいいか、どういった学校づくりができるかという点で、意見を1つにまとめるということが、まだ、できてないと思いますので、そこら辺の意見交換をした上で、県に要望する、あるいは市の考え方を述べるという点で、意見がまとまり次第、県のほうに、また、そういったものをお伝えする機会が、必要になるんじゃないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

早くお願いしますよ。ここで言うておるのが、平成31年度から34年度まで、普通科系の高校と総合学科は、高校を統合すると言うて、平成31年から34年ですけど、最短で平成31年、新しい1年生が入るときには平成29年ですよ。募集停止にされる可能性があるんですよ、平成29年、再来年ですか、もう1年もないんですよ。可能性は大なんですよ。小学校6年生ぐらいにも対象になってくるんですよ。それが一番怖いんです。

だから、急いでやらないとだめなんですよ。その辺の考え方、市長がこの前、9月の議会で2年前から要望してるというのに、またこんなことで、また急に長期計画、中長期計画出してきて、全県の対象でしょうけど、それはおかしいと思うんですよ。

その辺、やっぱり意見まとめて、今、総合教育会議ですか、それも立ち上げて議論しておるし、教育委員会だけではなく市長部局も入ってやっておるというのに、それまとめてばんと出してくださいよ、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりこれは、高校がしっかり、自分たちの方向性をどのようにしていくかという、1つのまとめ方もあろうかと思うわけであります。市だけで、残せという形の中でいって、じゃあ、何ができるといったときに、学校とずれてたら大変なことになるわけであります

そういう中で、今、海洋高校は、考え方をしっかりまとめていただいておりますので、我々はそれに対して、地域はどのような考え方で行くかというのを、明確に出させるわけであります。

ですから私は、もう1つはやはり、この白嶺高校は何を目指すか、何を地元の生徒と手をつないでいくかというものを、やはりその辺が、早急にまとめていくことが大切かな。

そういう中で、例えば我々もご意見を出せということになれば、出させていただくことはあろう

かと思うわけではありますが、やはり学校が、私は大切だと思っております。

そのようなことで、このような具体的なことが起きるということは、私は思っていなかったわけですが、しかし少子化という流れの中では、いつか来るぞというようなことがあるので、2年前に、早急にそういったことを事前にお考えくださいと、取り組みませんかというような形で、ご提案をさせていただいたわけでもあります。

今、その辺を一緒にさせてただきたいと私は思っておりますが、まだ、具体的には何も動きがないみたいでございますので、それを早急に、まとめていくことが大切かと思っております。それが、早道だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

長野県の白馬高校ですか、これも魅力化で取り組んで、皆さんご存じだと思うんですが、首長、村長も委員に入って、学校運営委員会を立ち上げて参画して、国際観光科を新設して全国から募集。公営塾の運営とか、教育寮の整備・運営とか、これを2村で、白馬村と小谷村が800万円負担して、寮の運営とか塾を運営・整備の中に入ってる。それと、生きた英語も使って、英検や漢検など資格取得の支援とか、タブレットを用いた学習サービス導入、映像教材や電子版の問題集など、留学支援とかもいっぱいありますが、ぜひ、もう入ってくださいよ、市長、教育長含めて。

何で0歳から18歳までの一貫教育の計画を立てておるのに、18歳までどうたってるんでしょう。もう一緒になってやりましょうよと言いましょ。高校を待っておれば、いつになったってわかりませんよ。一緒にやろまいいか、それチーム糸魚川でないんでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

白馬高校を今、例に出してお話しいただきましたが、白馬高校は数年前から、それ動いております。我々はやはり、そういった後発になったという、1つのおくれもあるわけではありますが、我々といたしましても、そういった形で進めていきたいわけではありますが、やはり何度も言いますが、県立高校という、1つちょっと違う部分がございます。一緒になって進めていく、我々地元の子供たちという形の中においては、18歳まで、一生懸命進めていかなくちゃいけないことは当然だと思っておりますが、やはり主体性を大事に捉えていきたいと思っております。官主導という形にはならんようにしていきたいと思うわけではありますが、しかし、そういう時間があまりないことも確かであるわけでもありますので、その辺はやはり、声をかけるかかけれんかわかりませんが、どちらからともなくわかりませんが、こちらからも声をかけることもしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、本当にどっちかが早いのか、鶏か卵かでなく、一緒になって、やっぱりやるべきなら、ちゃんとチーム系魚川もつくっておるし、0歳から18歳までの一貫教育計画もつくって、10年も経過して見直しに入ってるんですよ。そこがやっぱり、一緒になってやっていくべきだと思うんです。

先進地で特色化・魅力化、高校の魅力化というのは、本当に町一体になって、島根県海士町ですか、隠岐島前高校とか、いろいろなすばらしいことをやってるんですよ。それとともに、やっぱりやっていくべきだと思うんですが、その辺やっぱり、もう1度、覚悟を聞きたいと思うんですが、市長どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり私は、何度も言うように、系魚川高等学校、白嶺高等学校、海洋高等学校は、大事な本市の教育機関であります。そのようなことから、私もやはり気づいたときには、アクションをさせていただいております。

しかしやはり、高校が、自分たちは何をやるかというのは、やっぱり校長先生が、一番トップにおるわけでありまして。その指導のもとに、動いていくことが大切だと思っております。そうしないと、生徒の気持ちは、やはり一番、校長先生が把握しておるわけでありまして。海洋高校見てしかり、やっぱり海洋高校が一番、今、頑張っておるのは、やっぱり先生と生徒が一丸となっておるからであるわけでありまして。

そういうことにならないで、ただ我々、地域の中の1つの教育施設だからといって、行政だけで進めていくというわけにはいかないと思っております。ですから、そういった組織づくりが、まず大事ななと思っておるわけでございますので、その組織づくりに対して、私は提案させていただきますが、やはり学校の情熱がどこまであるかというのは、やっぱり一番大事だと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

11月14日に白嶺の同窓会、200名ぐらい集まったときにも、校長先生も同窓会長も含めて、特色ある魅力をつくる学校にしたいということも言ってますので、こっちからもアクションを起こしてくださいよ。そういうことを言ってるばかりで、行動に移さんから悪いんでしょうけど、やっぱり一緒になってやるべきだと思いますよ。海洋があれだけ頑張ってるのに、それも行政が一緒になってやっておったんですから、同じく系魚川白嶺もやっていただきたいと思うんですが、その辺、教育委員会としてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

そこで今、白嶺高校の具体的な支援であります、ことしの、県へ1学級減の反対の要望をするときに、学校の皆さんとの意見交換もさせていただきまして、具体的に総合学科という非常に、白嶺高校については、今現在、もとの工業・商業のほうが非常にわかりやすかったけれども、総合になってから非常にわかりにくいねというのは、やはりあるということで、その中で、どういう人が集まる特色づくりをしていくかということの話し合いをさせていただきました。

その後の、県の要望の中では、このジオパークというものを生かした観光、あるいは防災教育、そういったものに焦点を当てた学科、魅力づくりはどうだろうかということで、意見の一致を見て、県のほうへもお邪魔をしたということでございます。

また今回も、総合戦略の策定の中で、高校との連携の中で、当市から市の職員が出向いて、3つの学校の、それぞれの考え方もお聞きした中では、白嶺高校とすればやはり、前回、話に出たジオパークについて、室戸高校のほうに視察等にも行ってきたいというふうなお話も聞いておりまして、そこに市として、こういったご支援できるかというのは、また、新年度の予算編成の中で検討していくということを、今、やってるところでございます。

これはまた、新年度予算の中での優先順位づけの中で、つくつかないかとは別でございますが、そういった学校側の要望も聞いた中で、今、対応をしておるところでございます。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

新潟日報に載っておるのは統廃合、上越エリア6校ですよ。

それで、それはそれとしていいんですわ。組織づくりをやってください、その意気込みはどうですか。高校の魅力化プロジェクトでも、その組織化はどうですか。いつ設置するのもも含めて、高校にお願いして巻き込んで、チーム糸魚川としてはどうするんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

先ほどお答えさせていただいたように、こちらからもやはり声かけはしますが、しかし主体は、やはり高校側にあると私は思っております。その辺を、私はご理解いただいて、このことについては取り決めていきたいと思っております。こちらから、やはり行政が内容をお示しするようなわけには行かないと思っていますので、組織化をまずやって、その中で詰めていくのが、そういう形がどうなるかはわかりませんが、組織化について声かけをさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

組織化、ぜひ、お願いしたいと思えますし、この3月で上早川小学校が統合されます。小中で、1つの小中学校が何年も何年も、地域に入ってやっと、地域の方々の納得いくまで話し合いをして、何回も何回も行って地域に入って、ようやく合意形成なんですよ。これも大変なのに、高校がなくなるというのは大変なことだと思うんで、ぜひ、その辺も含めてお願いしたいというように思いますので、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を3時5分といたします。

午後2時50分 休憩

午後3時05分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕